

BIC 03

Business Information Center

Akita

2021
vol.476

公益財団法人 あきた企業活性化センター <http://www.bic-akita.or.jp/>

唯一無二の技術で
未来を拓く

経営探訪

日本精機株式会社

04 センター活用事例

「生きがい」をカタチに 能代の新しいお土産はいかが？
合同会社尚生

“美容”だけじゃない 脱毛に介護の視点を！
秋田美人再生サロン 咲輝～さき～

06 秋田の皆さんこんにちは

アニメ業界に革命を。秋田から、世界へ！
株式会社つむぎアニメLab

08 主催事業報告

これからのものづくりと

10 経営サプリメント

テレワーク導入にあたり

10 おしらせ

賛助会員&広告募集

「設備貸与制度」のご案内

オンラインショップ、活用できてますか？

あきた農商工応援ファンド

経営探訪

日本精機株式会社

唯一無二の技術で
未来を拓く



M A N A G E M E N T

国内唯一の技術と研究力

日本精機株式会社は1940年、東京都港区で旋盤、ボール盤の製作を主軸とする工作機械メーカーとして創立された。1945年に国内石油資源開発の協力依頼を受け、原油生産量国内最大級の八橋油田があった秋田市に疎開。天然ガス生産装置機器の製造や研究に力を注ぎ、当時は国外製品頼みだった生産装置の国産化に成功し、戦後復興に尽力した。現在も国内唯一の石油・天然ガス生産装置の設計製作メーカーとして、オイル・ガス・地熱プラントと重要なエネルギー資源の確保に貢献する。

一方で、創立当初から得意としていた工作機械、精密機械の製造と開発を継続し、計画的な人材育成と設備更新で、電子部品、半導体、食品関連装置、自動組立・搬送装置など事業の拡大を図ってきた。

「大きく分野の異なる、機械加工と特殊溶接技術を事業の両輪としているため、景気や時代の変化を、事業のバランスを調整しながら乗り越えることができます」と語るのは、現場からの叩き上げで2017年に代表取締役役に就任した石塚広行社長だ。

個々の技術が会社を支える

同社を支える要となっているのは、優秀な技術者・技能者だ。石塚社長は「個々の技術を磨くことが、会社の技術力となる」と、従業員が高度な技術や知識、資格取得に挑戦できる環境と、評価制度を整えている。

「国家資格取得に係る費用は、同じ資格でも3回目の挑戦までは交通費を含め全額会社で負担します。数年前から資格保有者には技能手当を設け、手当額の引き上げについて毎年見直しも行っていきます。高い技術力を持っていながら資格試験が苦手な従業員もいるため、社内の技能評価制度も設けています」。

「挑戦する気概」を行動規範に掲げて各種の技能競技大会にも継続的に出場し、「ボイラー溶接士技能競技全国大会」では、同社から3年連続で優勝者を輩出するという快挙を成し遂げている。優勝者は再出場できないため、まさに、会社としての技術力の高さを認められた形だ。

独自の「社内マイスター制度」を実施している同社では、定年後、得意分野の「マイスター」として年6回の社内での講義を持つ



日本精機株式会社

〒010-0941
 秋田県秋田市川尻町字大川反170-28
 (秋田市工業団地内)
 TEL. 018-863-1631
 FAX. 018-883-5027
<http://www.nihonseiki.co.jp/>

- 設立/1940年
- 従業員数/62名
- 資本金/2,000万円
- 業務内容/工作機械および周辺装置、
 半導体製造装置、精密級X-Yテーブル、
 電子部品加工装置、自動組立・搬送装置、
 食品関連装置石油・天然ガス生産機器、
 地熱生産機器、圧力・真空・熱容器・管工事

代表取締役社長
石塚 広行
いしづか ひろゆき

R E P O R T

ことを条件に、一年ごとに再雇用の契約を行い、マイスターは次世代への技術継承の役割を担う。技術の継承は社内だけにとどまらず、優れた技能と経験を持ち、厚生労働省の制度により「ものづくりマイスター」に認定された3名の従業員は、県内の高校で、未来のものづくりを担う学生たちの実技指導を行っている。

「自らの経験と技術を次世代に伝える過程は、教える側、教わる側両方の勉強の機会となり、技術を形にして残すことは会社の財産となります。実技指導をきっかけに、当社に入社したいという高校生が増えてきていることもうれしく感じています」。



1 若手の社員も多く、事業所には活気が溢れる。
 2 プラント関連製品では特殊な溶接技術が必要。

3 社内で設計も行う。
 4 各専門分野の受賞トロフィーが数多く並び。

ものづくりが繋ぐ次の100年

2020年に80周年を迎えるにあたり、同社は、天然ガスやLNG、秋田県の重要施策でもある地熱エネルギーを利用した設備開発と、既存設備のメンテナンス事業の拡大を視野に入れ、電気工作物の溶接に関する「民間製品認証規格」の取得に挑戦した。7か月間に及ぶ工程管理や品質管理の審査をクリアし、昨年6月には、ボイラーや熱交換器、液化ガス設備等にかかる溶接部について、工程中の検査を自社で実施できる県内で唯一の認定取得事業者となった。

また、同年の秋には、厚生労働省が認定する、全国でも50人に満たない選ばれたエキスパートである「テックマイスター」に、同社の社員が県内でただ一人認定されている。

「80年の歴史の中で、いつの時代も常に技術力を磨き、挑戦し続けることで活路を切り拓いてきました。製造業にとっては厳しい時代ですが、技術に付加価値を付けながら新しいことにチャレンジしていきたいと思っています」。

次の100年に向かって、日本精機はものづくりの技術を繋いで未来を拓いていく。